

## 第2回田辺市高等教育機関設置等調査検討会議 議事録

日 時	令和7年12月23日（火）午後2時00分から午後4時00分まで
場 所	田辺市役所1階 多目的ホール1
出席者	11名
欠席者	0名
議 事	1 開会 2 議事 (1) アンケート調査結果について (2) 各委員からいただいたご意見に対する考え方について (3) その他 3 閉会
1 開会	
2 議事	(1) アンケート調査結果について (2) 各委員からいただいたご意見に対する考え方について (3) その他
事務局	<p>会議次第の2番、議事のほうに移りますが、ここからの進行につきましては、本検討会議の設置要綱に基づき、座長に議長をお願いしたいと思います。</p> <p>それでは座長、よろしくお願いいたします。</p>
座長	<p>では、議事を進めさせていただきます。</p> <p>1点目は、アンケート調査の結果についてです。事務局より、ご説明お願いいたします。</p>
事務局	<p>(事務局より、資料1、資料2について説明)</p>
座長	<p>2種類、多岐にわたった情報ですが、順番に進めたいと思います。</p> <p>最初に、資料1の学生・保護者向けアンケート調査分析について、どなたからでも結構ですので、ご意見ご質問等お願いします。</p>
A委員	<p>この調査は、単年度のみか、これから何年か継続されるのでしょうか。</p>
事務局	<p>基本的には今回限りです。</p> <p>仮に公立大学を設立するとの方針を決定した場合には、開校の2年前に、学生アンケートの実施が必須となっておりますので、その時点で、もう一度実施することになります。</p>

B委員	<p>まず3ページの調査対象についてですが、和歌山県外の公立・私立と書いてありますが、この県外とはどこを指しているのか確認したいのが1点目となります。</p> <p>それから、10ページ目の調査結果ですが、「県内の学生は約15%が県内での進学を希望しています」と書いてありますが、このアンケートの結果から見ると、「15%が県内での進学を希望している」ではなく、「近畿地方に行くのが大部分」というのが、アンケートの結果ではないかと思います。この表題の部分が偏向的になっているのではないかと感じます。</p> <p>同様に、12ページの「情報科学が7%」、「田辺・西牟婁地域では、興味のある割合が低い」、「保護者の方が興味を示しています」と書いてありますが、この下のアンケート結果、並びに11ページを見ると、情報科学に対する関心は低く、「経済学」、「看護・医療技術学」、「教育」、「工学」など就職に結びつきやすい分野の関心が高いというところの方が、実態を表しているのではないかと思います。つまり、この資料の表題の記載が偏向的な言葉になっているのではないかという感じが全般的に受ける気がします。</p> <p>それから、17ページの「検討中の大学について」ですが、アンケートは3段階や5段階で聞くことが多く、今回の場合「興味・関心がある」「やや興味・関心がある」「興味・関心がない」「あまり興味・関心がない」と4段階になっていますが、通常、「どちらとも言えない」などの選択肢が必要なのではないかと思います。つまり「やや興味・関心がある」というところに、「興味・関心がある」と「どちらとも言えない」が、混在する形になっていて、結果の解釈がやりにくいのではないかと思います。</p> <p>「興味・関心がある」「やや興味・関心がある」の合計を根拠に、この大学に対して「興味・関心がある」と判断して本当に良いのか、アンケートのやり方の問題として、疑義があります。</p> <p>それから、23ページで、仮に「興味・関心がある」「やや興味・関心がある」という回答が「興味・関心がある」層と考えた場合、「わからない」がなぜこのように多いのかの理解が難しいです。実態がそうだからということかもしれませんが、通常、公立大学は人気が高いはずですが、特に和歌山県では、国公立大学の希望が強いと前段のアンケート結果で出ているので、「わからない」がなぜこのように多いのかは、考えなければいけないのではないかと思います。</p> <p>それから、28ページのフリーコメントのところ、「新設大学自体に関する要望」という項目が多いとなっていますが、具体的にどのようなコメントなのかを確認したいと思います。</p> <p>30ページ以降は、学生確保に関する考察となっておりますが、31ページで「興味・関心がある」「やや興味・関心がある」を根拠に、この大学に興味・関心があると考えて良いのか、「やや興味・関心がある」の中には、「どちらとも言えない」といった人がおそらく入り込んでいるはずで、果たしてこれを根拠に48%がこの大学に興味・関心があると判断して良いのか疑義があります。</p>
座長	<p>まず県外という表記の中には、具体的にはどの範囲の方が含まれているのか、教えてください。</p>
事務局	<p>近畿圏のうち、和歌山大学へ10名以上入学している都道府県を対象に、進学率が田辺高校より高い学校に対して、アンケートの協力依頼を行い、協力していただけると回答をい</p>

	<p>ただいた 13 校に対してアンケートを実施したものです。</p> <p>具体的には京都府が 3 校、兵庫県が 8 校、大阪府が 2 校となっています。</p>
座長	<p>和歌山大学への進学者が 10 名以上いる府県の田辺高校よりも進学率の高い学校に限定してアンケートを送付したということですね。</p>
B 委員	<p>県外という表記だけだと分からないので、確認をさせていただきました。</p>
座長	<p>続いて、それぞれのページのサブタイトルとしてまとめている内容が、偏向しているのではないかということですが、いかがですか。</p>
事務局	<p>県内学生のうち 15%は和歌山県内への進学を希望しているという形になっているのは、今回のアンケートは、検討している大学に学生が確保できるかどうかを把握することを目的としていますので、その目的に沿った分析を行ったところです。</p>
B 委員	<p>それはわかるのですが、下の方のクロス分析の結果から明らかなことは、学生にしても保護者にしても、和歌山県内ではなく、近畿地方に対する進学を希望するのが圧倒的に多いということが事実なのではないですか。</p>
事務局	<p>事実としては、圧倒的に多いということになります。</p> <p>ただし、和歌山県の学生収容率が、非常に低いということもありますので、県外、近畿地方へ進学したいという方が多いということは、こうした影響もあるかと思います。</p>
B 委員	<p>「学生も保護者も近畿地方に対する進学希望が圧倒的に多いが、県内学生の 15%は県内での進学を希望しています」といったことであれば分かりますが、圧倒的に近畿地方への進学希望が多いということに触れずに、本学の設立や学生の募集等を考えていくというのは、ミスリードになる可能性があるので、アンケート結果の事実は正確に伝えないといけないと思います。</p>
座長	<p>次に、アンケートの方法論ですが、4 段階評価を採用しており、「どちらでもない」というニュートラルの選択肢が設けられていない点について、二分法になっているというところは、ある意味、都合の良い解釈に傾いているのではないかというご指摘ですが、いかがですか。</p>
事務局	<p>「どちらでもない」という選択肢を設けていない理由については、後日、回答させていただきたいと思います。</p>
座長	<p>同様に 23 ページについてもご指摘いただいておりますが、「関心がある」という中で、受験したいかどうかは「わからない」が大多数で 74%あるということについても、しっかり分析すべきではないかというのが B 委員からのご指摘ですが、こちらはいかがですか。</p>

事務局	この辺については、今後、より詳細な分析をさせていただきたいと考えております。
座長	B委員から最後のご質問ですが、自由記述の特にポジティブな意見の具体的な内容をいくつか紹介していただきたいということですが、幾つか紹介していただけますか。 新設大学自体に関する要望が多かったということですが。
事務局	具体的に「AIが学べるから」といった回答もありますが、「いいと思います」「ぜひ作ってください」「いいと思います」といった感想的な意見が寄せられています。 詳細については、分析をさせていただきたいと考えております。
座長	B委員いかがですか。
B委員	今回は速報値のご報告ということですので、最後のコメントのところも、今後は詳細な分析、検討がなされると思いますので、それがなされましたら、ご報告いただければと思います。それから、分析結果については、大学設立ありきというバイアスが掛からないように分析していただきたいということは申し上げておきます。
座長	他の委員の方々、いかがですか。C委員お願いします。
C委員	32 ページの結論のところですが、「受験したい」と回答した学生は 164 人、県内の学生に限っても 150 人で、いずれも定員の 144 名を超えているということを根拠に、定員を上回る受験者数を確保できる可能性があると書いていますが、この「受験したい」というのは、必ずしも第 1 希望ではないと思っています。 例えば、国立大学の併願や滑り止め、2 次で受ける学生も実際には含まれると思うので、この 164 人や 150 人という数字と、定員の 144 名という数字は、比較対象にするべき数字ではないと思います。 （「受験したい」と回答した学生と定員を比較する）数字を出すのは良いですが、今後、この「受験したい」という学生を、いかに第 1 希望に持っていか、という努力が必要だと思うのと同時に、今後詳細な分析の中で、「受験したい」と回答をした学生のうち、「第 1 志望で考えても良い」という学生がどの程度いて、「併願校でなら良い」と考えているのはどの程度いるか、その中身を分析するというのは、今後、大事なかなと思いました。 あと、あくまでも感想ですが、11 ページや、13 ページにあるように、やはりまだ学生は、「経済学」や有名な学部、「看護・医療技術学」「教育」といった分野に興味が高いことから、就職に直結すると同時に、教員免許や看護など資格を取れるというのが（学生を確保するためにも）重要だと思います。 それから、「情報科学」の興味が高いのは、今後、議論する上では、重く受けとめなければいけないと思っています。 ただし救いなのは、逆に採用する事業者の方で、「情報科学」が上位となっているということですが、そのギャップを今後どのように埋めていくかが大事という結論にもなるので、その辺の議論を進めていただき、学生にも「情報科学」分野の認知を高めていくことが課題だと思います。

座長	ご意見や感じられたことで結構ですので、委員の皆様、いかがですか。 D委員お願いします。
D委員	<p>最後の 32 ページに関することですが、2030 年には、田辺市の小学校の 1 年生が 300 人を切るのではないかとされています。</p> <p>仮に田辺市に限っていうと、県内学生の大学や専門学校等への進学希望が大体 7 割程度なので、300 人掛ける 7 割なら 200 人程度が進学を希望することになります。</p> <p>そうすると、200 人のうち、この学校を「受験したい」人の割合が大体 15%程度であれば、田辺市だけに限れば、定員を大幅に割り込む数しか出てこないことになります。西牟婁地域で考えても同じような状況ではないかと思えます。</p> <p>現在の学生数をベースに考えれば、受験者数を確保できる可能性があるとのことですが、圧倒的に子供の数がこれから激減していくという事実を目の前にして、本当に受験者数を確保できるかという点は、非常に大きな不安を感じます。</p>
座長	事務局どうぞ。
事務局	<p>全国の公立大学の自県の高等学校からの進学率が平均 47.64%となっており、公立大学は全国から人が集まりますので、少なくとも 47.64%が県内で確保できれば、学生を確保できる可能性があるのではないかという考え方もございます。</p> <p>それと、情報科学の関係ですが、先ほど、学生のニーズは低いが、企業のニーズが高いとのお話もありました。これにつきましては、2023 年の 4 月に公益社団法人経済同友会が、価値創造人材の育成に向けた教育トランスフォーメーションを発表しており、企業として情報系の人材がより必要になってくると示されているので、今回の事業者アンケートで「情報科学系」のニーズが高いという結果に表れたのではないかと考えます。</p> <p>この辺についても、今後、検討していく課題であると考えております。</p>
座長	E委員、お願いします。
E委員	<p>このアンケートの回答数について、4,700 人というのは非常に多いと感じますが、通常、どのような回答率になるのでしょうか。</p> <p>個人の感想になりますが、県内学生で 50%、県外学生においても 40%という回答率は、高いと思いました。</p>
事務局	他の調査結果の情報は手元にありませんが、県内につきましては、和歌山県教育委員会へ協力依頼を行い、各公立高校に対して、田辺市が高校生向けアンケートを実施するので協力してくださいとお声かけをしていただいております。県外につきましては、事前に協力いただけるかどうかの確認を行い、協力していただける高校を対象としていますので、比較的回答率が高くなったものと考えられます。
座長	よろしいでしょうか。

F委員	<p>いかがですか。他の委員の方もどうぞ。F委員お願いします。</p> <p>32 ページの学生確保、25 ページの地域推薦枠入試についてです。</p> <p>まず、このアンケートについて、生徒と保護者は、この大学のことをどの程度理解して回答しているのかを教えてください。</p>
事務局	<p>アンケート用紙の裏面に概要を掲載しております。画面の方で共有させていただきます。</p> <p>公立の4年制大学で、設置者が田辺市、設置場所は旧本庁舎の跡地で、学部学科が（仮称）社会情報科学部／社会情報科学科、定員が144名となっています。</p> <p>学部・学科の特色で、未来社会を支える人材の育成を目的としています。2040年頃には、AIなどの先進技術が幅広い分野で活用され、そうした中では、「人間にしかできない」判断力等がこれまで以上に求められます。この新しい公立大学では、学生に「いかに生きるか」を問い、そして、論理的思考力と歴史観・世界観に裏付けられたバランスのとれた大局観を養い、フィールドワークを通じて、多様な文化や働き方に触れ、学びを実感できる学修を実施します。</p> <p>さらに、AIリテラシーなどを、探究的な学びを通じて体系的に修得し、地域社会と世界を結ぶ知の拠点を目指します。また、すべての科目を集中講義で学びます。</p> <p>それから、養成する人材像では、AI等の最新技術と人間理解を結びつけ、社会課題の解決に挑戦する創造的な人材を育成する。</p> <p>このような概要を見ていただいた上で、アンケートに答えていただいております。</p>
座長	<p>いかがでしょうか。お願いします。</p>
G委員	<p>生徒たちが、どのようなイメージを持ってアンケートに回答したのかという点については、不安があります。</p> <p>というのは、私自身、「情報科学」と聞いても、どのようなことを学ぶのかというイメージが湧きにくいと感じています。</p> <p>高等学校にも教科「情報」が導入され、少し時間が経ちますが、大学による共通テストの歴史はまだ浅い状況にあります。生徒たちが情報科学を学び、この後どのような力が身に付き、どのような将来像が描けるのかというところは、イメージがしにくかったのではないかと思います。</p> <p>地元の公立大学という意味では、非常に魅力を感じるものの、結局、どのように答えて良いか分からず、分からないから、受験もするかどうか分からないというように、回答のしようがなかったのだろうというのが率直な感想であります。</p> <p>ただ、今回のこの資料を拝見して感じたのは、やはり田辺・西牟婁地域は、大学進学についてのイメージが湧きにくい地域なのではないかという点です。そのため、他地域に比べて、大学進学の希望率がやや低めであることや、あと経済的にも厳しいところがあるのではないかと想像されます。</p> <p>大学に進学するとなると、多くの費用が必要となり、生活費もかかります。そうした中で、地元にある大学があるということは非常に魅力的ですが、生徒自身の将来や保護者にとっても、どのような将来に繋がるかという展望が見えにくいところが、今回のアンケート結</p>

	<p>果に如実に表れたのではないかと感じました。</p> <p>それから、「集中講義」のスタイルで授業を進めるという点について、そのような学びのスタイルがあるのかと思いましたが、その「集中講義」という言葉すら子供たちにはなじみがなく、何のことか分からなかったのではないかと思います。やはり、アンケートを依頼した生徒や保護者に対して、圧倒的に情報量が少なかったのではないか、その結果、答えようがなく、このような結果になったのではないかという感想です。</p>
座長	<p>親御さんの立場ということで、H委員、I委員、コメントをいただければと思います。</p>
H委員	<p>このアンケート結果を見て、保護者ならこのように答えるだろうと感じました。また、学生の立場でも同様に答えるだろうと思いました。</p> <p>以前にも申し上げましたが、学費が安いこと、自宅から近い場所に学校があることについては、地元の子供達にとって、間違いなく魅力であり、そのように考えるのは自然なことだと思いました。</p> <p>それから、本日興味を持ったのが、22ページの「大学の設置場所に不安を感じるから」という「興味・関心がない」人の回答です。やはり、親の立場からすると、あの場所に大学を作るのかという思いはあります。</p> <p>また、この県内の48校について、県内48校は全ての学校でしょうか。</p>
事務局	<p>公立高校は、和歌山県教育委員会を通じて依頼を行い、全ての学校で協力をいただきました。私立高校は、和歌山県教育委員会の所管外のため、田辺市から個別に協力依頼を行い、9校のうち7校から協力をいただきました。</p>
H委員	<p>48校のうち、先ほどから皆さんが言われている32ページについて、「興味がある」と答えた人が48%で、164人いるから定員を超えるというのは、疑問です。公立大学なので、何でもかんでも受け入れるというわけではないと思います。その中で、全員に聞いて定員144名を超えていますというのは、少し疑問があります。</p>
座長	<p>I委員、いかがですか。</p>
I委員	<p>皆さんが言われているように、受験したいか「わからない」と回答している方の割合が大部分を占めている点について、その詳細な分析をしていただけるということですので、その点については、またよろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>それから、私も子どもと関わる立場からすると、大学の設置場所に対しては、やはり考えるところはあると感じています。景観の面などを考えれば、良い場所であるという点は理解できます。</p> <p>仮に、検討中の大学の設置予定場所周辺の場合、避難場所や避難経路は当然あると思いますが、どのような避難場所や避難経路を想定しているのかについて、教えていただければと思います。</p>
事務局	<p>その件につきましては、現在実施しております建物調査の関係もございますので、次回</p>

	<p>の検討会議において、改めて報告させていただきたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。</p>
座長	<p>学生・保護者向けは一旦置きまして、事業者向けのアンケートについて、いかがでしょうか。ご意見、ご質問等いただけますか。</p>
B委員	<p>調査対象について、和歌山県外に本社等を置くと書いてありますが、先ほどの高校と同じで、「県外」とは、どういう基準で選ばれたのかという点が、まず確認したいところです。</p> <p>それから、いろいろと分析はされていますが、例えば13ページについて、金融・保険業の半数以上の事業者が、定期的に県内の大学の卒業生を採用しているとありますが、ここでいう金融・保険業は、地銀、信金、郵政、農協などと思いますが、これらの金融機関の場合、県内大学の卒業生を採用することは、ある意味で、当たり前の結果だと思います。</p> <p>それから、14ページの卸売・小売業についても、地元のスーパーマーケット等だと考えられますので、これも当然の結果だと思います。こうした当たり前と言える内容が結構多く、それをご確認されて何を導き出したいのかがよく分かりません。</p> <p>それから、21ページについて、「ベンチャービジネス学」を特出ししたというのは、何か意図がありますか。</p> <p>また、23ページについて、「6割以上の事業者が検討中の大学に対して期待しています」ということですが、先ほど皆様にご質問されたのと同じように、企業側がこの大学をどの程度理解した上で回答しているのかという点について、疑義があります。</p> <p>「A I等の最新技術を活用し、人間理解を結びつけて社会課題に対応する創造的な人材の養成」と説明されれば、どのような企業であってもそのような人材を採用したいと思うのは当たり前のことで、どこまでこの大学の特性を理解して、この大学に期待しているのかについては、より一層精査が必要ではないかと感じました。</p> <p>それから、最後の就職ニーズに対する考察について、現時点では速報値レベルですので、今後さらに深い考察があると思いますが、「アンケートに回答した県内事業者のうち、71社が積極的に採用したいと回答しています」との記載があり、それはその通りなのですが、昨今の人手不足といった様々なマクロ的な要因を考えれば、人材を採用したいと思うのは当たり前のことで、果たして、今回のこの新設する大学の特性を十分に理解した上で、「そういう人材ならぜひ採用したい」という判断がなされたのかどうかは、アンケートだけでは難しいので、場合によっては、フォーカスグループインタビューを別途実施するなどして深掘りをしないと、このアンケート結果だけをもって、就職のニーズがあると結論付けするのは、少し無理があるのではないかと感じました。</p>
座長	<p>事務局にご説明いただきたいのですが、まず県外とはどこでしょうか。</p>
事務局	<p>「県外」については、全国を対象としています。</p> <p>就職企業人気ランキング（地域別ランキング）の各エリア、上位30社を抽出しました。ただし、当該ランキングには東京都の事業所が含まれていなかったため、東京所在の事業所については、業種別ランキングから抽出しました。</p>

座長	次は、ベンチャービジネス学を特出ししたのは、何か理由があるのでしょうか。
事務局	文科省の分類に基づいて設計した項目です。 他事例も参考にし、ベンチャーという項目も判断して入れました。
座長	次に、この大学の特性というものを、どの程度理解した上での企業側からの回答なのかという点についてです。
事務局	この項目につきましても、他項目とクロス集計をする中で、より一層精査してまいります。
座長	企業側への大学の説明の資料は、高校生や保護者に提示したものと同じですか。
事務局	同じです。
座長	B委員いかがですか。
B委員	高校生の方への説明と同じように、先ほどの説明だけでは企業側がこの大学の特性をどこまで理解して回答しているのかというのは分からない部分もあるので、もう少し深掘りをする必要があるのではないかと思います。 それから、もう1点ですが、なぜ全国の企業に確認されたのですか。
事務局	学生がどこで就職するかは、その学生が決めることですので、全国での可能性も確認したいということで対象としました。
B委員	現実的な感覚としましては、本学が仮に設立された場合に、その卒業生がどのようなところに就職するのかという点について、可能性レベルとしては全国を対象とすることもあ るのかもしれませんが、アンケートの対象範囲や対象企業レベルの規模等の深さをきちんと設計しなければ、今回の目的に適合した調査であるのかどうかという点が分からないので、もう少し分析をしていただければと思います。
座長	さて他の委員の方いかがですか。C委員、お願いします。
C委員	23 ページの「県内事業者 n=185」というのは、これが総数という理解でよろしいのかを確認させてください。 また、例えば「非常に期待する」の 69 という数字については、185 のうちの 37% という理解でよろしいのでしょうか。
事務局	そのとおりです。 また、事業所別アンケートの 3 ページの一番下に回収状況を記載しており、発送数、回答数、回答率がありますので、こちらをご覧くださいと思います。

<p>C委員</p>	<p>その上で、この「6割以上の事業者が期待しています」ということに対して、どれだけ信憑性があるのかというところですが、こういうアンケートを実施すれば、当然に「期待します」という回答が多くなる傾向になるのではないかと思います。</p> <p>それを踏まえて、この6割という数字が大きいのか小さいのかという点が問題ではないかと思っており、さらに言うと、次の25ページ以降の期待すると回答した人たちは、何に期待するのかという点、また、期待しないと回答している人たちはどういうところがあまり期待できないのかという点の検討が重要だと思います。</p> <p>やはりこの26ページを見ますと、大体は「期待する」と答えてる中で、「期待しない」と答えている理由というのが、今後重要になってくると感じておりますので、今後は、このあたりを積極的に分析していただき、もう少し深掘りをしていただきたいと思います。</p> <p>さらに申し上げますと、6割以上が期待していると答えているこの6割という数字は、私は少ないと思います。4割近くが「期待しない」と回答していることを今後は重視していただきたいと思います。</p>
<p>座長</p>	<p>いかがでしょうか。G委員、お願いします。</p>
<p>G委員</p>	<p>26ページの「検討中の大学に期待しない理由」についてですが、事業者がn=20となっておりますが、この20という数字は、県内・県外合わせた事業者数ということでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>20は全て県内事業者となります。</p>
<p>座長</p>	<p>どうでしょうか。H委員、お願いします。</p>
<p>H委員</p>	<p>29ページの、県外事業者の8割近くが前向きな姿勢となっている点についてですが、「条件が合えば採用を検討する」という回答も前向きに含めてよいのでしょうか。</p> <p>条件が合わなければ採用しないとも受け取れるため、どちらとも取れるのではないかと思います。</p>
<p>座長</p>	<p>いかがですか。ポジティブな解釈でサブタイトルが記載されているがそうではないのではないかというご指摘だと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>こちらの点につきましては、先ほどからB委員からも偏向があるのではないかというご指摘がございますので、後日、修正も含めて検討する内容かなと理解しております。</p>
<p>B委員</p>	<p>このアンケートについては、さらにきちんと分析、整理をしていただく必要があると思います。</p> <p>一方で、例えば企業の方に関しては、そもそもこの大学が、地域に貢献する人材を輩出したいという目的を持っているのであれば、地域に所在する企業がどのように捉えているのかという点を、もう少し確認する必要があるのではないかと思います。</p> <p>通常このような調査では、まずアンケート調査を全般的に実施し、その後、深掘りを行</p>

	<p>う段階で、いくつかの企業に集まっていただき、フォーカスグループインタビューを行うなどして、実際どのように考えているのかという点を深掘りするのが、一般的な調査の手法ではないかと思しますので、その辺もご検討された方がよろしいのではないのでしょうか。</p> <p>強制するものではありませんが、地元の企業の皆様がどのように捉えておられるのかといった点について、もう少し大学の状況を詳しくご説明した上で、このような取組や調査を行わなければ、実態が出てこないのではないかという気がします。</p>
座長	<p>重要なサジェスションかと思いますが、事務局どうぞ。</p>
事務局	<p>県内企業で「期待する」「ある程度期待する」と回答したその理由についてもご意見いただいております、そうした内容についても、今後詳細に分析を進めていきたいと考えております。</p> <p>この大学の構想の内容については、地元の商工会議所等にこれまでもご説明させていただく機会をいただいております。</p> <p>その中で、いろいろご意見をいただくこともございますし、今後についても、会員の皆様からご意見をいただく機会を設けることは可能であると思しますので、その点については、商工会議所様も含め、ご相談させていただきたいと考えております。</p>
座長	<p>2つ目の議題に行かせていただきたいと思いますと思いますが、よろしいでしょうか。</p> <p>議事の2点目、各委員からいただいたご意見に対する考え方について、事務局の方からご説明よろしく願いいたします。</p>
事務局	<p>(資料3 1ページについて、事務局から説明)</p>
座長	<p>ご説明いただきましたがいかがでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>ではその次、「地方部における大学誘致・新設の事例とその要因について」お願いします。</p>
事務局	<p>(資料3 2～3ページについて、事務局から説明)</p>
座長	<p>いかがでしょうか、よろしいでしょうか。続けていきたいと思っております。</p>
事務局	<p>(資料3 4～5ページについて、事務局から説明)</p>
座長	<p>カリキュラムについていかがでしょうか。よろしいですか。</p> <p>もし、後で思い出したことや思いついたことがありましたら、適宜、挙手をお願いします。</p> <p>続きまして、6ページから7ページにかけては、学生の確保に関するテーマで、意見をいただいております。</p>
事務局	<p>(資料3 6～7ページについて、事務局から説明)</p>

座長	委員の皆さん、いかがですか。
B委員	この考え方というのは、田辺市サイドでの考え方という理解をしておりますが、例えば、7ページのナンバー4にある交通アクセスの問題について、考え方はご説明いただきましたが、交通アクセスについては、大学を選択する際に、極めて重要な要因の1つであると思います。南紀白浜空港は東京と繋がっている点で、確かに便利ではありますが、別にそれで通学するわけではありませんので、現実論をもう少し考えた方が良いのではないかと思います。
座長	他のご意見いかがですか。では、入試方法について、お願いします。
事務局	(資料3 8ページについて、事務局から説明)
座長	<p>これまでの財団のプランに関するご説明や検討会議でのやりとりの中で、懸念材料が1つございます。この入試に関しても、「知の探究合宿」というのは、泊まり込みの合宿形態による授業のような形になると理解しておりますが、これによってある程度の人数を選抜していくとしますと、1回では済まないのだろうという点も含めて、非常にカリキュラムについても、入試についても、個々の学生との、より深いやり取りを想定されているのだと感じており、その点については理解できます。</p> <p>ただ一方で、スタッフの働き過ぎというものが、この大学のプランの根底にリスクとしてあるように感じております。現実には、このプランどおりに進めるためには、教員と学生の比率が足りていないのではないかと思います。</p>
C委員	<p>大学のポリシーの中のアドミッション・ポリシーは、今までどのような学習をしてきた生徒を入学させるのかという、非常に重要な問題であると考えております。そのため、この点は、ここで記載されているとおり、より適切な入試方法について今後検討してください。</p> <p>それから、今まで、短期合宿のような取組を行い、その中で入学させる学生を選んできた大学の事例を知っている方がいらっしゃいましたら、教えていただきたいと思います。</p>
事務局	今すぐ事例をお示しすることはできませんが、確認し、報告させていただきたいと思います。
座長	よろしいでしょうか。お願いします。
D委員	<p>入試に関しては、以前の検討会議の際にも申し上げたかと思いますが、いわゆる学生の確保にしても、日本人学生だけが焦点になっており、留学生という視点が全くフォーカスされていない点について、疑問を感じております。皆が望む大学を日本人学生だけで成り立たせていくことができるのかという思いがあります。</p> <p>いわゆる私立大学で、地方に設立した大学で成功を収めているのは、別府に設置された立命館アジア太平洋大学が代表的な一校であると思います。同大学は、学生の半数を留学</p>

	<p>生が占めており、1年生は全員全寮制という形で運営されているかと思えます。</p> <p>地方に大学を設置するにあたって、海外からの留学生に対して、どのように広報やPRを行うのか、あるいはどのようにして来てもらうのかといった視点が欠落しているのではないかと思います。</p>
座長	<p>国際協力といったキーワードからは、何らかの言及があってもよいのではないかと考えます。次に行ってよろしいですか。</p> <p>それでは、教員の確保について、お願いします。</p>
事務局	<p>(資料3 9ページについて、事務局から説明)</p>
座長	<p>いかがでしょうか。よろしいですか。</p> <p>続いてですが、10ページについては検討中ということで、次、11ページの初期費用についてお願いします。</p>
事務局	<p>(資料3 11～12ページについて、事務局から説明)</p>
座長	<p>いかがですか。お願いします。</p>
C委員	<p>これまでの検討会議でも意見があったように、この財団に関する資金調達の考え方、全国からの寄付や企業版ふるさと納税については、あくまで見込みです。</p> <p>そのため、今後、大学設置構想がこの検討会議を終え、どのような方向に進むのか、仮に進めるといふ方向になったとしても、一番大事なことは財政的な課題をどのように解決するかという点であると思っております。例えば、想定していた資金が集まらなかった場合や、交付金についても同様に、想定通りにいかなかった場合には、柔軟に、今後この大学をどのようにしていくのかという点について、今回の会議に限らず継続的に検討していただきたいと思えます。</p> <p>三条市のようにはいかないという意見もありましたので、その辺を踏まえて、今後進めていただければと思います。</p>
座長	<p>よろしいですか。続きまして、13ページをお願いします。</p>
事務局	<p>(資料3 13ページについて、事務局から説明)</p>
座長	<p>いかがでしょうか。よろしいですか。引き続き14ページをお願いします。</p>
事務局	<p>(資料3 14ページについて、事務局から説明)</p>
座長	<p>いかがでしょうか。よろしいですか。それでは次、15ページをお願いします。</p>
事務局	<p>(資料3 15ページについて、事務局から説明)</p>

座長	いかがでしょうか。それでは、最後の 16 ページをお願いします。
事務局	(資料 3 16 ページについて、事務局から説明)
座長	いかがでしょうか。お願いします。
E 委員	<p>大学の設置の有無にかかわらず、地方創生、地方再生というものは、本当に喫緊の課題であると考えております。そういう観点から、この大学を設置することの是非について考えていきたいと思い、この検討会議に臨んでおります。</p> <p>おそらく大学や市役所に任せきりにしておいては、うまくいくものではないと思います。本当に、地域ぐるみで、この地域が私達にとって住み続けられる地域になるのかどうかということを真剣に考える中で、この検討課題と向き合わなければならないのではないかと思います。</p> <p>日本中そうですが、人口が今後半減していく中で、地域が生き残るということは、奇跡に近いのではないかと思います。30 年先か 40 年先には、消滅自治体となる可能性が高いことを踏まえ、なんとか消滅しない未来を見据えて話をするのか、現状だけにこだわるのかということ、この検討会議の大事な論点の一つではないかと思います。</p> <p>先ほどから、企業のアンケート結果の説明がありましたが、私もその企業側の一員ですけれども、大学卒業者をコンスタントに雇用できるような実力のある会社ではありません。そのため、現実的な話として、大学ができた場合に大学卒業者を雇用するかと問われると、分からないとなります。</p> <p>ただし、もし優秀な人材がいれば、会社の形態も変わっていく可能性もあるかもしれません。卵が先か鶏が先かという議論になるかもしれませんが、このまちの将来について、行政、大学、民間が共に考え、何とか地域が存続できるような、そのような地方創生のあり方を、この大学にも期待したいというのが、私の意見です。</p>
座長	いかがでしょうか。
B 委員	<p>すみません。よろしいでしょうか。</p> <p>資料に関連する話ですが、今回の検討会議にご参加された委員の方々に、前回財団へヒアリングをした結果の議事録そのものは共有されているのでしょうか。この資料は、財団からヒアリングした結果を集約して作成していると思うのですが。</p>
事務局	議事録作成が間に合っておらず、共有はできておりません。
B 委員	<p>今回のこの考え方の中には、田辺市のお考えと財団からの回答を要約して記載している部分があると思います。前回のヒアリングにご参加された方であれば、ニュアンスは汲み取れると思いますが、理想論と現実論が混在しているように感じますので、委員の方々には、必ず議事録を共有していただきたいと思ひますし、特に最後に座長が言われた言葉については、非常に重要だと考えております。</p>

	<p>今回の大学の考え方について、そうした点をきちんと委員の方々に共有した上で、この考え方を整理していかないといけないと思います。いろいろなことを進めて行く中で、まず理想がベースになれば話にならないと思いますが、それを現実感のある形で、どのように実現していくのかという点を考えなければ、絵に描いた餅になってしまいます。</p> <p>少なくとも、この財団がどのような現実感のある考えを持っているのか、また人材の採用や教員の採用も含めて、どのように考えているのかについては、議事録を読んでもらえば概ね共有できると思いますので、委員の方々に共有していただき、そのニュアンスを汲み取っていただきたいと感じております。</p>
座長	<p>このまま第3の議題、本日の全体の議論について、ご意見等あればお願いします。</p>
C委員	<p>まだ前回の財団ヒアリングの議事録ができていないということですが、前回の財団のヒアリングが、今回の第2回の会議と第1回の会議の間に行われたということですので、少し感想を述べてよろしいでしょうか。</p> <p>ヒアリング自体は、事前に質問を行い、その回答も準備された上で実施したということで、2時間、目一杯使って行い、ある程度、財団の考えは伺うことができたのではないかと感じています。</p> <p>大学において大事なものは、これまでも何度も述べさせていただいておりますが、3つのポリシーであると認識しております。どのような生徒を入学させるのかというアドミッション・ポリシー、その入学した生徒を4年間でどのように教育して育てるのかというカリキュラム・ポリシー、そして最終的にどのような形で学位を授与し、どのような学生を社会に送り出していくのかというディプロマ・ポリシー、この3つの考えが重要だと認識しております。</p> <p>その中で、まずアドミッション・ポリシーについては、財団からある程度の説明があり、県内だけでなく県外についても、何度も打ち合わせを行いながら検討を進めているという話がありました。</p> <p>また、カリキュラム・ポリシーについても、フィールドワークをこの熊野の地で充実させるということ、実際にスクリーンを使ってカリキュラムを見ながら説明を受けました。これについては、ある程度、検討がなされているという印象を受けました。</p> <p>一方で、最後のディプロマ・ポリシー、どのような学生を社会に輩出していくのかという点については、若干弱いのではないかと感じました。財団からは、「自分で考えて、感じて、実際に行動できる力を身に付ける」といった説明がありましたが、抽象的であると感じました。</p> <p>またディプロマ・ポリシーの説明の中でAIリテラシーというキーワードも使っているのですが、事業者の皆様には、具体的にイメージしづらい内容があると思いますので、この辺については、今後さらに充実させていかなければ、難しいのではないかと感じました。</p> <p>事業者アンケートにもあるように、優秀な人材であれば採用したいというのは自然な考えであり、期待しているというのは、優秀な人材を輩出してほしいということですので、これについては、今後、大きな課題になってくるのではないかと思います。</p> <p>また、先ほどB委員がおっしゃったように、2時間にわたるヒアリングの中で、私が一番感じたのは、最後に述べられた座長のお言葉です。「このまちが他所にはない価値を持つ</p>

	<p>ている」という大きな言葉を述べられて、実はそのような発言を、本来は財団から聞いたかったと感じております。</p> <p>それこそ、大学を背負って立つ、前に進めていく原動力になるはずだと思います。理想的には財団の中に、将来的には大学の中に、先ほどの座長のお言葉のような考えを持つ方が中心となって、引っ張っていくことが本当に必要だと思いました。</p> <p>私の感想ですが、今後、この構想を進めるにしても、進めないにしても、前回のヒアリングの結果を踏まえると、財団を中心に据えるというよりも、財団が有するノウハウを市として吸収し、市の内部、または、市の外で本当に市を愛する人達を中心に進めていくのであれば、推進していく意義があるのではないかと感じています。</p> <p>座長</p> <p>それでは、本日の会議でいただいたご意見のうち、委員の皆様にお返しが必要な内容につきましては、いくつかございましたので、精査の上、後日、事務局よりお知らせさせていただきます。</p> <p>また、委員の皆様方につきましても、後日、内容を振り返る中でご意見等がございましたら、事務局までお知らせいただければと思います。</p> <p>それでは、本日予定していたすべての議事が終了しましたので、事務局に進行をお返しします。</p> <p>事務局</p> <p>1点だけ回答させていただきます。</p> <p>先ほどC委員から、合宿型の採用試験を実施している大学があるのかというご質問がありました。2026年度から三条市立大学において導入を始めたようです。</p> <p>ただし、全体の規模のうち、何人をそれで選抜するのかについては、現時点では分かりませんが、実際に実施している事例はあるということになります。</p> <p>事務局</p> <p>それでは、これもちまして、本日の検討会議を終了させていただきます。</p> <p>委員の皆様方におかれましては、長時間にわたり、熱心にご議論をいただき、誠にありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">【終了】</p>
--	---